令和６年７月31日（水曜日）

光る感性 雄大に丹念に

高校書展は、25校（前年比3校増）から117点（同10点減）の応募があった。内訳は漢字102点、かな7点、漢字かな交じり書8点。

日報大賞には、柴垣琴乃さん（盛岡一高2年）、千葉七望さん（同3年）、阿部柚月さん（盛岡白百合学園高3年）の3人が選ばれた。

柴垣さんは、呉昌碩の石鼓文を丹念に書き上げた努力作。隅々まで気持ちが行き届き、澄んだ線が美しい。千葉さんは、趙之謙独特の隷書をおおらかに、紙面いっぱいにまとめた規模の大きな作品。阿部さんは、王鐸の行書作を自分のリズムで運筆した、スケールの大きな思い切りの良い作品と評価された。

優秀賞は4点、秀逸賞は14点、入選は38点が選ばれた。

高校

日報大賞

盛岡一高2年
柴垣 琴乃

力強い文字 心込めて

昨年佳作の悔しさをばねに、1枚を仕上げるのに3日ほどかけ、集中して取り組んだ。力強さを意識し、画数の多い文字の線質が細くならないよう気を付けた。書き出しの「我」は整った仕上がりになり満足している。書道を通して集中力がついた。後悔のない作品を書き上げ、もっと字数の多い作品にも挑戦する。

盛岡一高3年
千葉 七望

鍛錬9年間 集大成に

受賞は9年間取り組んできた書道の集大成となった。初めて挑んだ趙之謙の作品。包み込むような起筆の動きが難しかったが、特に「道」の最終画をきりりと書けて気に入っている。これまで楽しく、明るく書道に取り組んでこられた。人と話すことが好きなので、夢の社会福祉士を目指し頑張っていきたい。

秀逸賞

盛岡一高3年 櫻井 仁美

盛岡一高3年 山形 華夢

盛岡一高3年 熊谷 悠衣

盛岡一高2年 千葉 美也子

（岩手日報）

この記事は岩手日報社の許諾を得て転載しています。